

2014年10月18(土)

読売新聞 三重 12 版 33 面

(舞台人狼)

NPO代表「人狼」対決

ゲームの会話で人柄知って

村人と人食いオオカミの役に分かれた原
内のNPO関係者らが、質疑を通じてチ
ム戦を繰り広げる「人狼ゲーム②」を見て
楽しむイベントが23日、津市栄町の劇場津
あけぼの座スクエアで開かれる。企画し
た津市NPOサポートセンターは「ゲーム
を通じて来場者が出演者の人柄に触れ、地
域活動に興味を持つきっかけになれば」と
来場を呼びかけている。(吉富萌子)

津で23日

来場者は劇の後半で人狼
を投票することができる。
開催は午後7～9時。入場
料は一般2000円(前売
り1500円)、学生150
0円(同1000円)。問
い合わせは同センター(0
59・213・7200)。

出演者は、地域づくりや
母親支援などに取り組むN
PO法人の代表ら11人。台
本や事前の練習なしに舞台
へ上がる。ゲームは人狼3
人と村人8人でスタート。
人狼は自分の仲間を知って
いるが、村人は誰が人狼か
知らない。人狼は追放され
ないため、村人からの質問
にウソをついて助かること
も。村人は必死に人狼を

探そうと議論を尽くす。

出演者は、ウソを見破ら
れないようにしたり、信頼
に値する発言を引き出した
りする会話力や、意見を集
約する能力が問われる。同
センター理事長の川北輝さ
ん(35)は「地域の課題をつ
かむアンテナの鋭さや、活
動を先導するコミュニケー
ション力の高さを感じても
らいたい」と話している。



▲ 昨年9月に行われた人狼ゲ
ームで、誰が人狼か当てる。
参加者ら(津市NPOサポ
ートセンター提供)

人狼ゲーム、人狼と村人に分か
れ、会話によって相手の「正体」村
人は人狼を村から追放しようと、屋間
には誰が人狼かを議論し、多数決で「最
も怪しい者」を排除する。夜間には村
人が1人襲われる。人狼を全て追放す
れば村人の勝ちだが、村人と人狼が同
数になると人狼の勝ちとなる。